

令和6年度 第2回 ビジネス実務学科FD 報告

日 時：2025年3月18日(火)9:00～11:00

担当者：井戸、瀬戸、藤元

場 所：A135 教室

参加者：藺森、瀬戸、矢澤、三藤、坂上、廣瀬、井戸、小原、藤元

<テーマ>

各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか、GPA の分布結果から学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）する。また学習成果のその他指標についても評価し査定（アセスメント）する。さらに3/24(月)実施予定の合同会議でのグループ討議テーマについても検討する。

(内容) 初めに井戸先生から、2024年度後期成績の分析結果が次のように示された。

まずフィールドごとの GPA 平均値（1・2年全体、1年生、2年生：2024年度後期）が示された。全体ではフードフィールド（2.89）、情報フィールド（2.59）や医療・福祉・こどもフィールド（2.58）は比較的高く、コース専門フィールド（1.80）やオフィスフィールド（2.06）は低い傾向であることが示された。特に2年生はビューティ・ファッションフィールド（3.02）が高い値となっている。



次にフィールドごとの成績割合（1・2年全体、1年生、2年生：2024年度後期）が示された。当然ではあるが、GPA 値の高いフィールドは S や A の成績割合が高く、前期と同様フードフィールド（1・2年全体）は60%を超える結果が示された。またオフィスフィールドや観光・外国語フィールドは、D の割合が比較的高いことがわかった。

次にユニットごとの GPA 平均値（1・2年全体：2024年度後期）が示された。全体として履修者数が10人以上で比較的值が高いのは、前期と同様ファッション・アートユニット（3.07）、フードコーディネートユニット（2.90）、クッキングユニット（2.86）であることが示された。また比較的低いのは、トラベルユニット（1.79）、コース専門科目のメディカル秘書専門（1.80）であることもわかった。

次にユニットごとの成績割合（1・2年全体：2024年度後期）が示された。

S と A の割合について、1・2年全体ではファッション・アートユニットは80%以上、情報ビジネスユニット、情報デザインユニット、医療事務ユニット、フードコーディネートユニット、クッキングユニットは60%以上と高いことが分かった。

次に GPA 平均値の高い科目（3.00を以上）8科目、GPA 平均値の低い科目（2.00以下）10科目が示された。

次に履修者数と科目の GPA 平均値の散布図が示され、2.35 付近を中心に、履修者数増加につれて緩やかに GPA が低下する傾向が見られた。

最後に、同一科目における担当者別で、また同一教員におけるクラス別で GPA 平均値に0.5以上のバラツキがあるものが示された。同一科目・担当者別では2科目、同一教員・クラス別でも3科目あることがわかった。

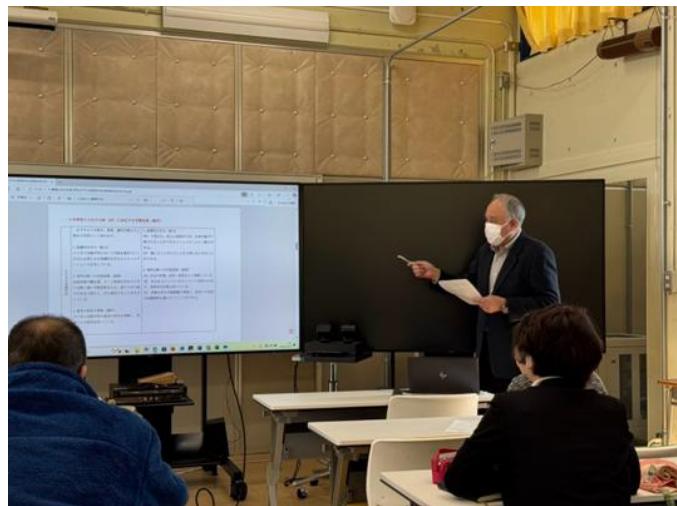
これらの結果を踏まえ年度末の非常勤講師との合同会議で成績分布結果を示し、標準化を図っていくこと、また、再試験の無い科目で D:不可が多い科目については、再試験を実施してもらう方法を検討していくことも確認

された。

次に令和6年度認証評価用プレ自己点検・報告書に関していくつかの内容案が藤元先生から示された。

APとDPの対応内容については、今後検討していくことになった。

次に2021年度から2023年度の入学生に対する卒業データ（卒業率、退学率、就職率、進学率、休学率）が示された。卒業率と進学率のグラフについて分けて表示した方がいいのではないか、退学率は全学年の在籍数を分母で計算した方がよい、などの意見が出されたので今後他学科とも調整して、自己点検・評価室で検討していくことになった。



次にGPA分布（1.0未満、1.0以上2.0未満、2.0以上3.0未満、3.0以上）について、2022年度から2024年度で前期・後期を学年別に処理した結果が示された。1年前期は、2022年度から2024年度にかけて、上位層（3.0以上）の割合が減少し、中間層（2.0以上3.0未満）や下位層（1.0以上2.0未満）の割合が増加してきている。2年前期は、2023年度が他年度に比べて上位層（3.0以上）の割合が低く、下位層（1.0以上2.0未満）の割合が高い。2024年度は、中間層（2.0以上3.0未満）の割合も高く、GPA値が最も高くなったことが示された。1年後期は、2022年度から2024年度にかけて、上位層（3.0以上）の割合が減少し、中間層（2.0以上3.0未満）は2023年度の割合が高く、下位層（1.0以上2.0未満）は2022年度の割合が高い。2年後期は前期と同様に、2023年度が他年度に比べて上位層（3.0以上）の割合が低く、下位層（1.0以上2.0未満）の割合が高い。2024年度は、上位層（3.0以上）の割合も高く、GPA値が最も高くなったことが示された。

次に開講受講科目の履修者数に対する成績評価分布について、2024年度前期・後期を学科別に処理した結果が示された。前期は、履修者数が少ない場合（10以下）ではA評価割合が高く、BやCの評価割合が低い、履修者数が多くなるに従ってA評価割合が低くなり、BやCの評価割合が高くなっている。履修者数が多い場合（40超え）は成績評価の割合はバランスが取れている。履修者数が増えるに従って、SとA評価割合は低くなり、BとC評価割合は高くなるが大きな差異は無いことなどが示された。後期は、履修者数が少ない場合（10以下）ではB評価割合が低い、履修者数が多くなるに従って高くなっている。S評価割合は履修者数が多くなるに従って低くなっている。履修者数が多い場合（40超え）は成績評価の割合はバランスが取れている。履修者数が増えるに従って、S評価割合は低くなり、AとBとC評価割合は高くなるが大きな差異は無いなど示された。

次に瀬戸先生から、3/24(月)実施予定の常勤・非常勤合同会議においてグループで話し合うテーマについて示された。前・後期の授業アンケートで、自由記述の内容とそれに対する対応案を生成AIで作成した結果が示された。さらに、パソコンと学生側スマートフォンでリアルタイムにアンケートを行う方法が示され、合同会議ではテーマを決める際に利用することになった。

